

## 第3回世界湿地都市ネットワーク市長会議について

### ○会議の目的

ラムサール条約の湿地自治体認証を受けた都市で構成される「湿地都市ネットワーク」において、湿地に関する政策・経験の情報共有や相互協力を促進するためのプラットフォームを提供すること

### ○第3回会議の概要

- ・期日 令和6年10月15日(火)～17日(木)
- ・主催 東営市（中国・山東省）（共催 ラムサール条約東アジア地域センター）
- ・会場 東営市
- ・内容 会議（基調講演、事例発表、総会）、湿地の現地視察

### ○会議等



#### 【会議】

- ・7か国の21都市（オブザーバーを含めると31都市）から200人以上が会議に参加しました。
- ・各都市のほか、ラムサール条約事務局、多くの国際機関や地元（中国）の研究者も参加し、講演を行いました。
- ・分科会では、各都市が事例発表を行いました。新潟市は、市の湿地の特徴のほか、ラムサール条約湿地である佐潟の再生に向けたこの1年間の取組みなどについて発表しました。（写真）各都市とも、湿地自治体認証を契機に、湿地における環境教育など、次世代の担い手の育成に力を入れているようでした。
- ・総会（写真）では2年後の開催都市の選出があり、2026年は新潟市が開催することが決定しました。
- ・翌週の生物多様性条約締約国会議 COP16（コロンビア）に参加する出席者も多く、会議全体を通して、生物多様性について活発な意見交換がありました。



#### 【その他】

- ・屋外展示スペースでは全都市の湿地がパネルで紹介されたほか、新潟市などいくつかの都市は湿地関連グッズの配布などによりPRを行いました。（写真）

## ○湿地視察1 「清風湖公園」



- ・市の中心部には大規模な人造湖「清風湖」があり、湖岸は親水空間となっていて、散策、体操、釣りなど、多くの市民に親しまれていました。
- ・湖では参加者はボートに分乗し、それぞれガイドが1時間ほどのツアーを案内しました。
- ・多くのボランティアスタッフが参加し、通訳にあたりました。(写真中央)

## ○湿地視察2 ラムサール条約湿地「山東黄河デルタ」



- ・黄河は、長い歴史の中で河道の変遷を重ねてきた河川であり、はじめに博物館「黄河文化館」でその歴史と特徴の解説がありました。
- ・「山東黄河デルタ」は、現在の河口に位置する湿地帯で、東営市中心部からバスで40分ほどの場所にあります。黄河は、運ぶ泥の堆積速度が世界最大の河川であり、この地域の陸地面積は拡大を続けています。(写真の奥が河口)



- ・バスで湿地に近づくとつれ、上空では、新潟でもよく見られるハクチョウの「V字編隊」が増え、親しみを感じました。また、東営市の鳥であるコウノトリも、電柱の上にある巣などで多く見られました。

- ・河口付近の一带は、淡水と海水が混ざる汽水域の湿地帯であり、一部は木道が整備され、動植物が観察できるようになっています。

(写真は、淡水を導水することにより塩分濃度を低く保ち、ヨシやヤナギなど淡水性の植物が多く見られる区域)



- ・木道からは、多くの種類の水鳥(ガンカモ類)が見られました。(写真はガンの一種)
- ・観光バスで来場する子どもが多く見られ、東営市の環境教育の熱心さが伝わりました。